

香川県教育大綱の主な取組状況

香川県教育委員会

目 次

1 確かな学力の育成と個に応じた教育の推進	1
2 豊かな人間性をはぐくむ教育の推進	8
3 すこやかな体をはぐくむ教育の推進	16
4 元気で安心できる学校づくり	21
5 社会全体で子どもを育て、いつでも学べる環境づくり	26
6 多様なスポーツ活動が実践できる環境づくり	29
7 文化芸術に親しむ環境づくり(文化遺産の継承)	32

1 確かな学力の育成と個に応じた教育の推進

平成28年度～令和2年度の主な取組み

① 確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none">・ <u>香川型指導体制の推進</u>・ 「魅力あふれる県立高校推進ビジョン」の策定（R元年度）など、県立高校の魅力向上
② キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none">・ ジョブ・サポートティーチャーの配置・ 新規学卒者のための職場定着サポート
③ 外国語教育、国際理解教育の推進	<ul style="list-style-type: none">・ 小中学校連携事業の充実など、外国語活動の充実・ 日本語初期指導教室など外国人児童生徒への支援
④ 情報教育の推進	<ul style="list-style-type: none">・ <u>GIGAスクール構想の実現など学校におけるICT機器の整備</u>・ <u>ネット・ゲーム依存予防対策の推進</u>
⑤ 幼児期の教育の推進	<ul style="list-style-type: none">・ 「香川県就学前教育振興指針」の策定（R元年度）
⑥ 特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none">・ 特別支援教育スキルアップ検討会議の設置（R2年度～）・ 小豆地域における特別支援学校の整備推進

学力の定着状況①(小学6年)

全国学力・学習状況調査における全国と香川県の平均正答率の推移【調査区分別】

※平成29年度以降の都道府県の調査区分ごとの平均正答率は、文部科学省から整数値が提供されている。

全国学力・学習状況調査

調査区分	国語A				国語B				国語B		
	H27	H28	H29	H30	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3
県(公立) 平均正答率(%)	72.3	75.0	75	69	69.5	59.5	59	58	65	中止	63
全国(公立) 平均正答率(%)	70.0	72.9	75 (74.8)	71 (70.7)	65.4	57.8	58 (57.5)	55 (54.7)	64 (63.8)	中止	65 (64.7)
県と全国との差 (pt)	2.3	+2.1	0	-2	4.1	+1.7	+1	+3	+1	中止	-2

調査区分	算数A				算数B				算数		
	H27	H28	H29	H30	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3
県(公立) 平均正答率(%)	74.3	78.2	79	64	47.0	46.7	48	53	68	中止	71
全国(公立) 平均正答率(%)	75.2	77.6	79 (78.6)	64 (63.5)	45.0	47.2	46 (45.9)	52 (51.5)	67 (66.6)	中止	70 (70.2)
県と全国との差 (pt)	-0.9	+0.6	0	0	+2.0	-0.5	+2	+1	+1	中止	+1

(注) 令和元年度から「A問題」、「B問題」の区別がなく、知識と活用を一体的に問う調査問題が出題されている。

小学校における平均正答率は、国語は全国平均を下回り、算数は全国平均を上回っています。

学力の定着状況②(中学3年)

全国学力・学習状況調査における全国と香川県の平均正答率の推移【調査区分別】

※平成29年度以降の都道府県の調査区分ごとの平均正答率は、文部科学省から整数値が提供されている。

全国学力・学習状況調査

調査区分	国語A				国語B				国語		
	H27	H28	H29	H30	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3
県(公立) 平均正答率(%)	76.0	77.2	78	76	64.9	67.5	71	60	73	中止	64
全国(公立) 平均正答率(%)	75.8	75.6	77 (77.4)	76 (76.1)	65.8	66.5	72 (72.2)	61 (61.2)	73 (72.8)	中止	65 (64.6)
県と全国との差 (pt)	+0.2	+1.6	+1	0	-0.9	+1.0	-1	-1	0	中止	-1

英語※		
R元	R2	R3
55	中止	実施無
56 (56.0)	中止	実施無
-1	中止	実施無

調査区分	数学A				数学B				数学		
	H27	H28	H29	H30	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3
県(公立) 平均正答率(%)	64.4	63.8	66	67	41.3	44.6	49	46	60	中止	56
全国(公立) 平均正答率(%)	64.4	62.2	65 (64.6)	66 (66.1)	41.6	44.1	48 (48.1)	47 (46.9)	60 (59.8)	中止	57 (57.2)
県と全国との差 (pt)	0	+1.6	+1	+1	-0.3	+0.5	+1	-1	0	中止	-1

※令和元年度から始まった英語の調査結果は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計を集計している。

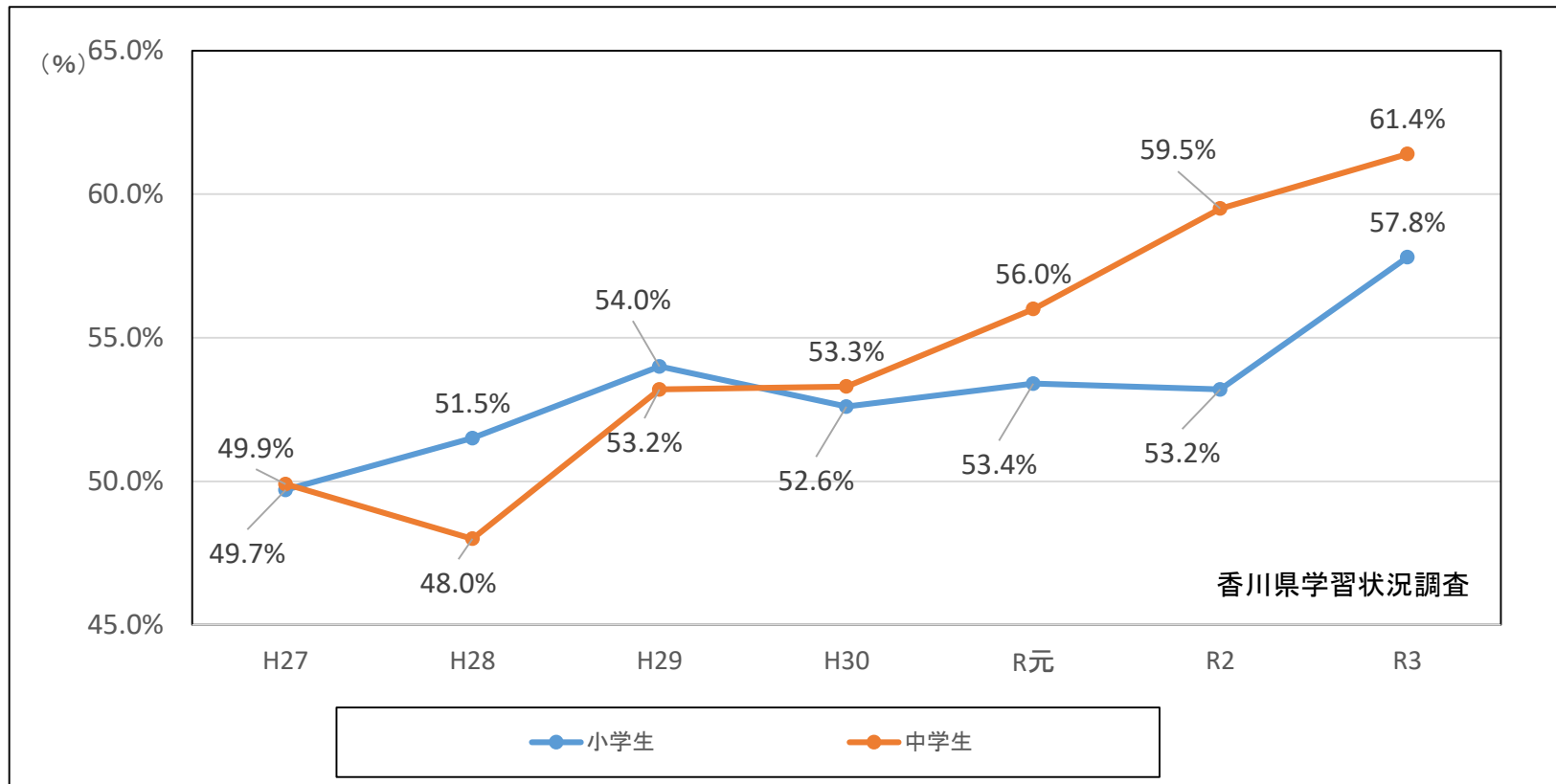
(注) 令和元年度から「A問題」、「B問題」の区別がなく、知識と活用を一体的に問う調査問題が出題されている。

中学校における平均正答率は、国語、数学とも全国平均を下回っています。

聞く姿勢

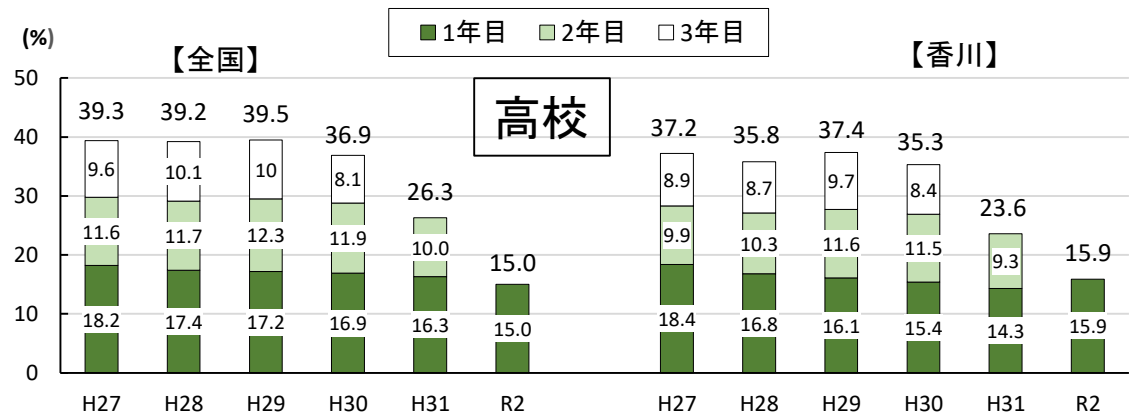
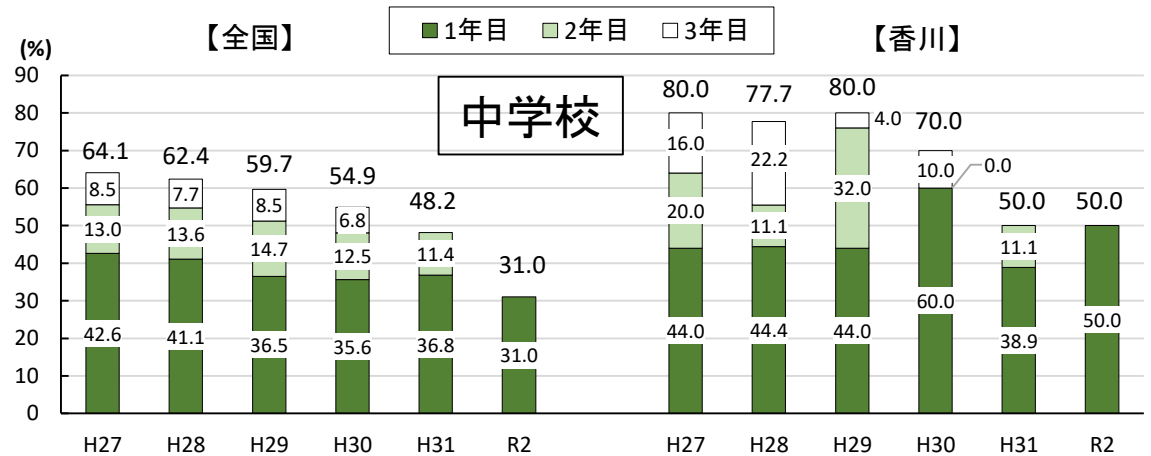
問) 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか

「当てはまる」と回答した児童生徒の割合

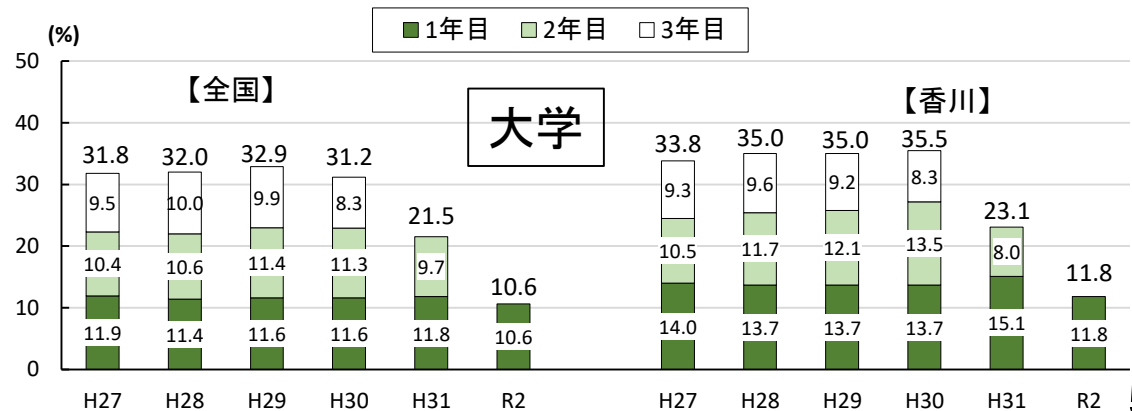


平成27年度と比較すると、小学生は8.1pt、中学生は11.5pt増加しており、学び合いの基盤となる聞く姿勢は育っていると考えられます。

新規学卒者の 在職期間別 離職率の推移



高校卒業者の離職率については、香川労働局や県教委の職場定着に係る取組みなどにより、減少傾向にあります。



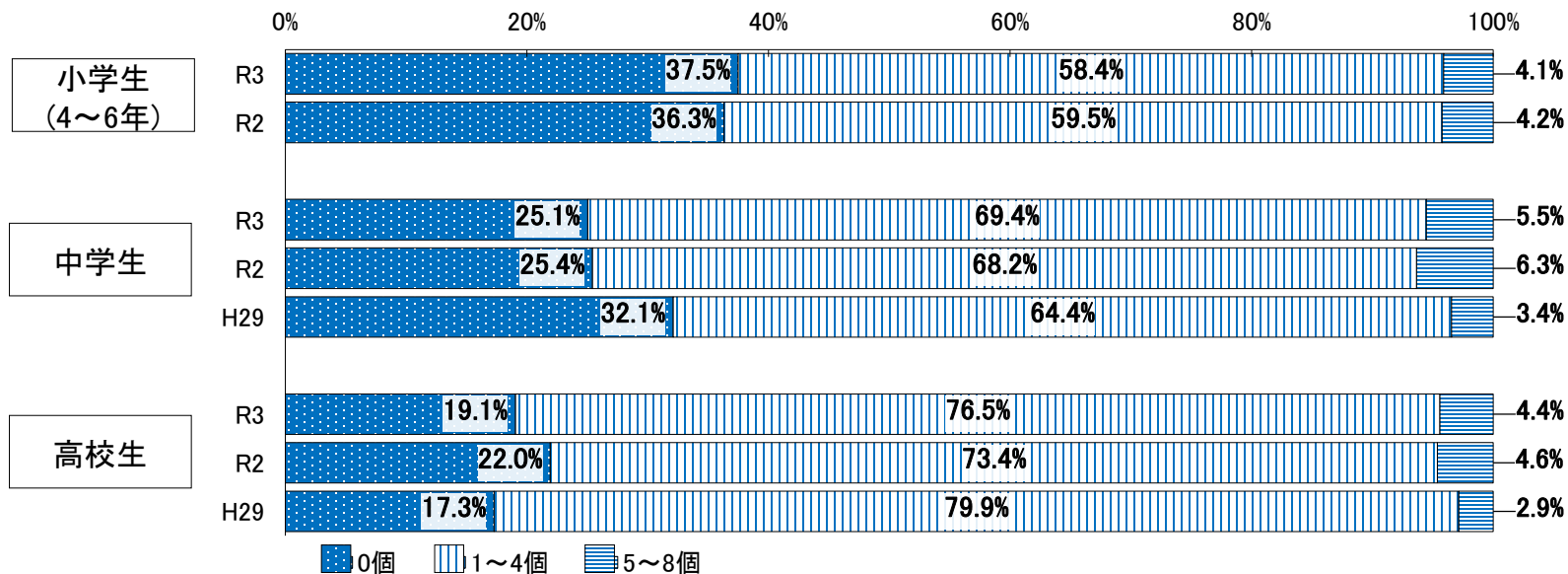
ネット・ゲーム依存の傾向（H29（小学生除く）、R2、R3年度）

※自分のスマホ等を所有している、または家族所有のスマホ等を使用していると回答した生徒に対する質問

・下記の8項目のうち、5項目以上に該当する場合、ネット・ゲーム依存傾向として注意が必要
 （厚生労働省研究班による生活習慣についての全国調査（平成29年度）を基に香川県教育委員会で作成）

- ① ネットに夢中になっていると感じる
- ② 満足を得るために、ネットの使用時間をだんだん長くしたいと感じる
- ③ ネット利用を制限したり、時間を減らしたり、完全にやめようとしたが、うまくいかなかったことがよくある
- ④ ネットの時間を減らしたり、完全にやめようとしたとき、落ち着かなかったり、不機嫌や落ち込み、またはイライラなどを感じる
- ⑤ 使い始めに思っていたよりも長い時間ネットを利用している
- ⑥ ネットのために大切な人間関係や学校のことを台無しにしたり、あやうくすることがある
- ⑦ ネットに熱中しすぎていることを隠すために、家族、学校の先生にウソをついたことがある
- ⑧ 問題から逃げるために、または、絶望、罪悪感、不安、落ち込みといったいやな気持ちから逃げるためにネットを利用する

令和3年度 スマートフォン等の利用に関する調査（香川県教育委員会）



ネット・ゲームへの依存傾向にあると考えられる児童生徒の割合は、中・高校生では平成29年度よりは多いものの、全校種で令和2年度から減少しています。

1 確かな学力の育成と個に応じた教育の推進

まとめ

学び合いの基盤となる「聞く姿勢」は育っていると考えられるが、「個に応じたきめ細かな指導」に加えて、「個を活かす協働的な学び」に向けた体制を構築し、引き続き、確かな学力を育成していく必要がある。

主な課題

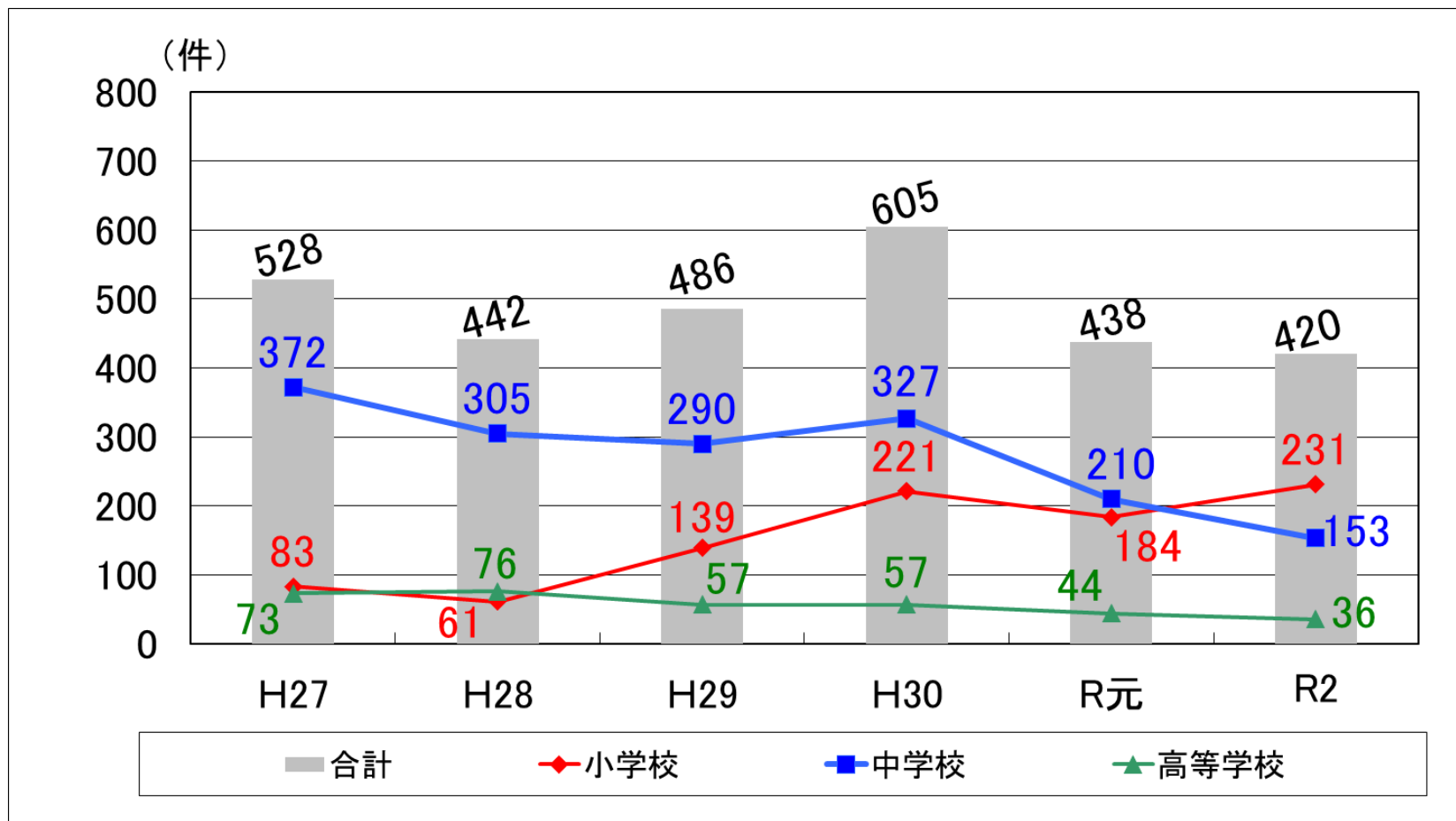
- ・ 小学校高学年における専科指導の拡充など、小・中学校におけるより効果的な指導体制の実現
- ・ 高校におけるイノベーション教育や地域課題探究的な学びの推進
- ・ 発達段階に応じたキャリア教育や、成人年齢の引き下げを踏まえた主権者教育・消費者教育の推進
- ・ 各学校段階を通じた英語教育の充実
- ・ 特別支援教育における「個別の指導計画」の効果的な活用
- ・ 外国人児童生徒への日本語指導の普及
- ・ 教育現場におけるICT環境の整備と教員のICT活用スキルの向上
- ・ スマートフォン等の適正利用とネット・ゲーム依存予防対策の推進
- ・ 幼児期における教育の充実と小学校教育との円滑な接続

2 豊かな人間性をはぐくむ教育の推進

平成28年度～令和2年度の主な取組み

①	道徳教育、ふるさと教育の充実	<ul style="list-style-type: none">・新学習指導要領に基づく「道徳科」の実践・ふるさと教育に活用できる教材の充実
②	暴力行為、いじめ、不登校対策等生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none">・<u>スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用と資質向上</u>・学校だけでは対応が困難な事案へのスクールサポートチームの派遣
③	体験活動等の推進	<ul style="list-style-type: none">・県内の公立中学校における集団宿泊学習の実施・学校ごとに特色のあるボランティア活動の実施
④	豊かな感性や情操をはぐくむ教育の推進	<ul style="list-style-type: none">・小・中・高校における総合文化祭の開催支援・<u>「かがわ未来のアーティスト育成事業」等の実施</u>
⑤	人権・同和教育の推進	<ul style="list-style-type: none">・「人権・同和教育職員ハンドブック」の作成（R2年度）・<u>多様性社会に適應するための教職員研修や、児童生徒の参加体験型学習の実施</u>

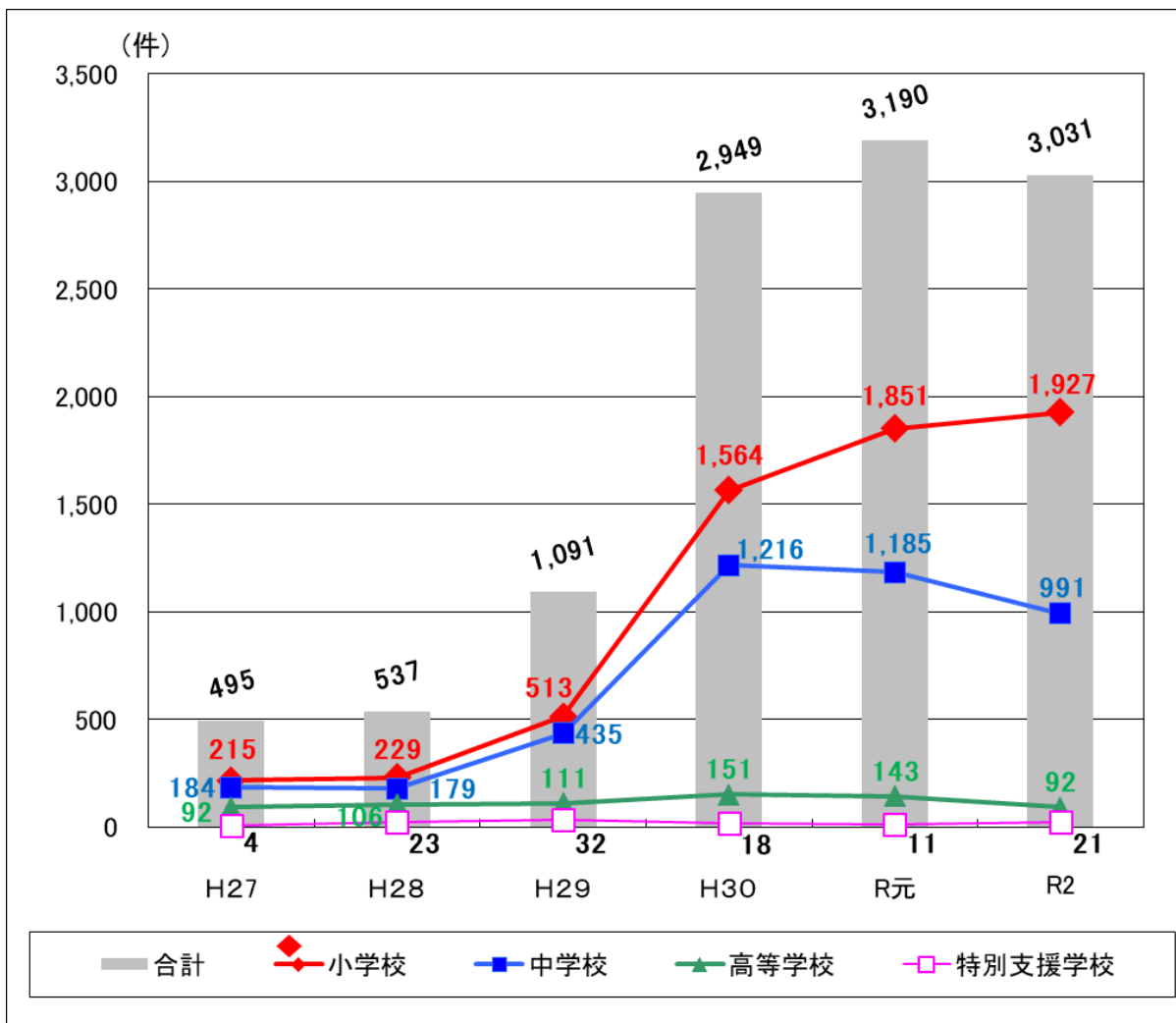
暴力行為発生件数(国公立)の推移



児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査

暴力行為発生件数は、小学校が令和元年度より増加し、中学校と逆転しています。合計件数としては、現行の調査方法となった平成18年度以降、最少です。

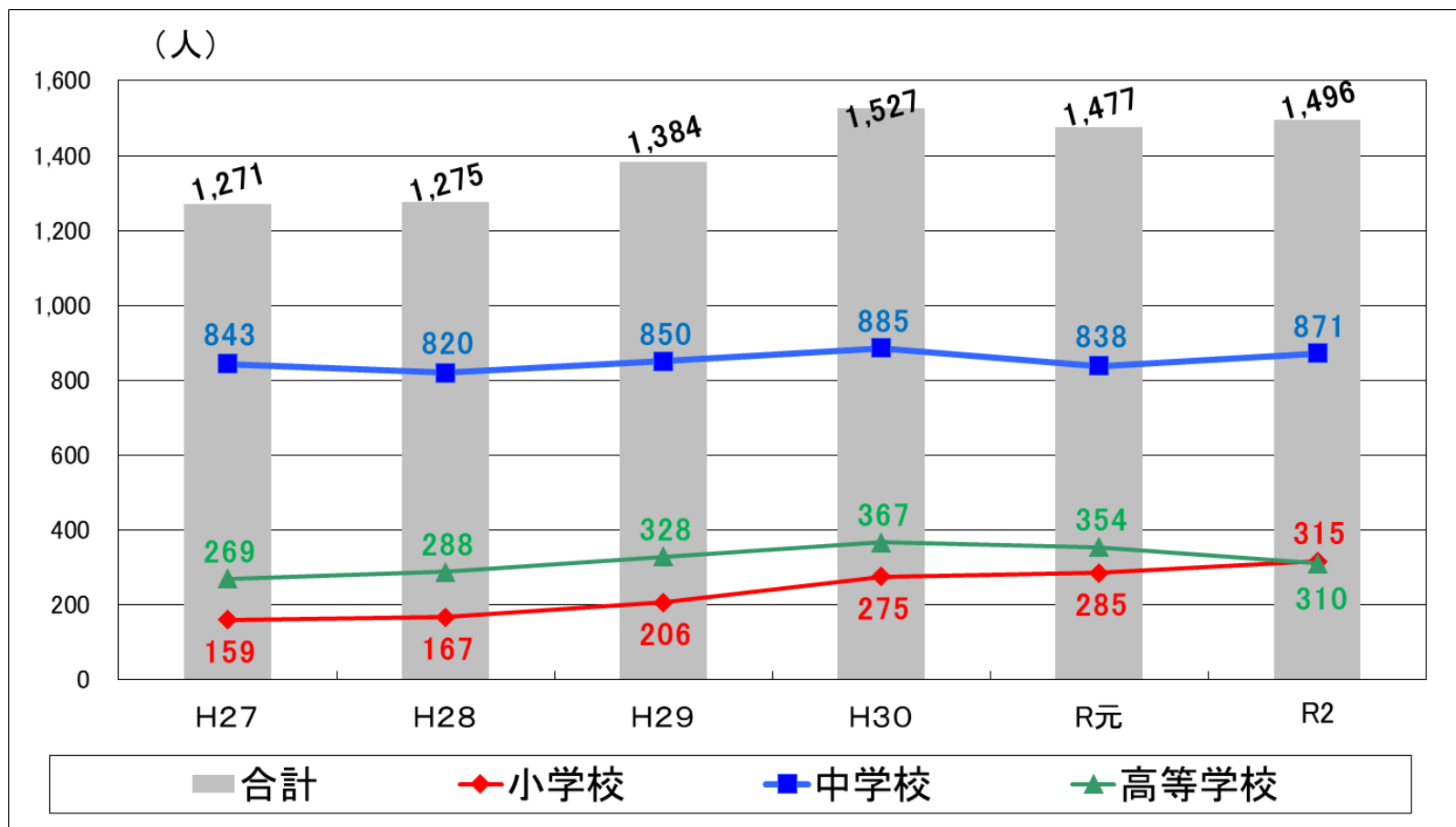
いじめ認知件数(国公立)の推移



いじめ認知件数は、令和元年度と比較すると、小学校と特別支援学校では増加し、中学校・高校では減少しています。

児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査

不登校児童生徒数(国公立)の推移



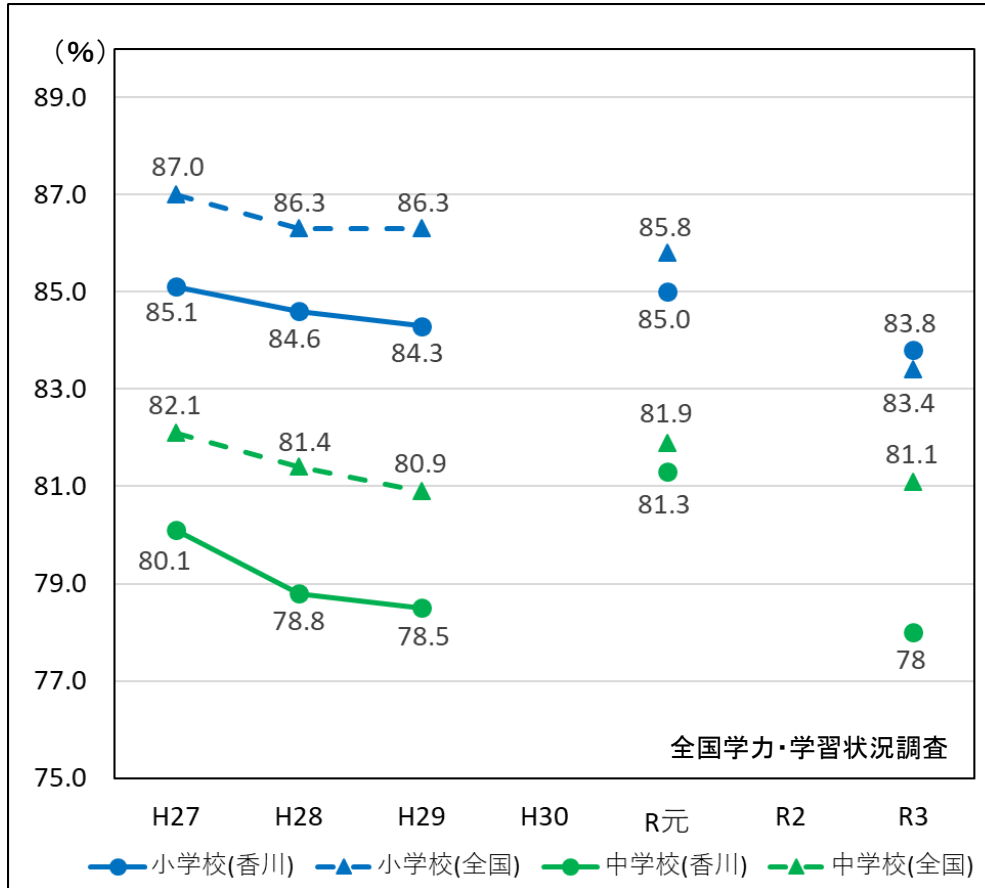
児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査

不登校児童生徒数は、令和元年度と比較すると、小・中学校で増加し、高校では減少しています。小・中学校、高校の合計では横ばい状態です。

学校生活

問) 学校に行くのは楽しいと思いますか

肯定的に回答した児童生徒の割合



肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校において、初めて全国平均を上回っています。中学校では、全国平均と比べ3.1pt下回っています。

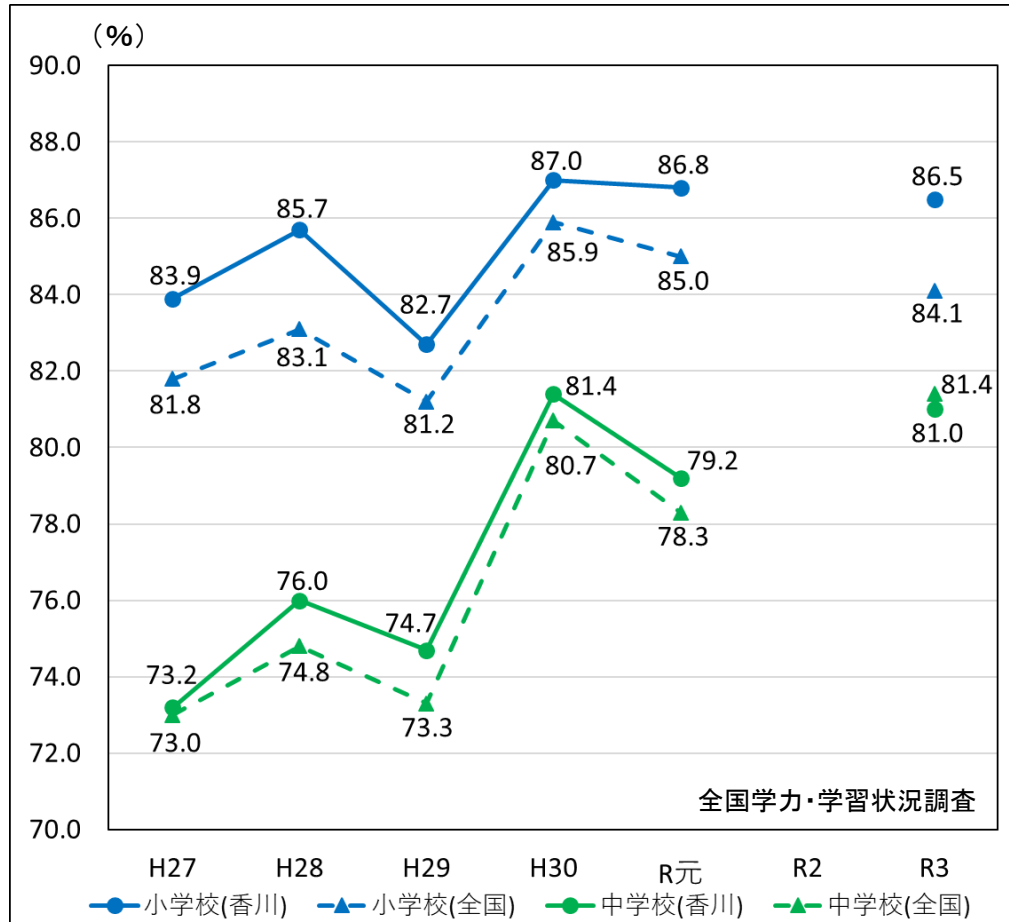
※H30年度は、該当する質問無し。

※R2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により調査無し。

規範意識

問) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

「あてはまる」と回答した児童生徒の割合



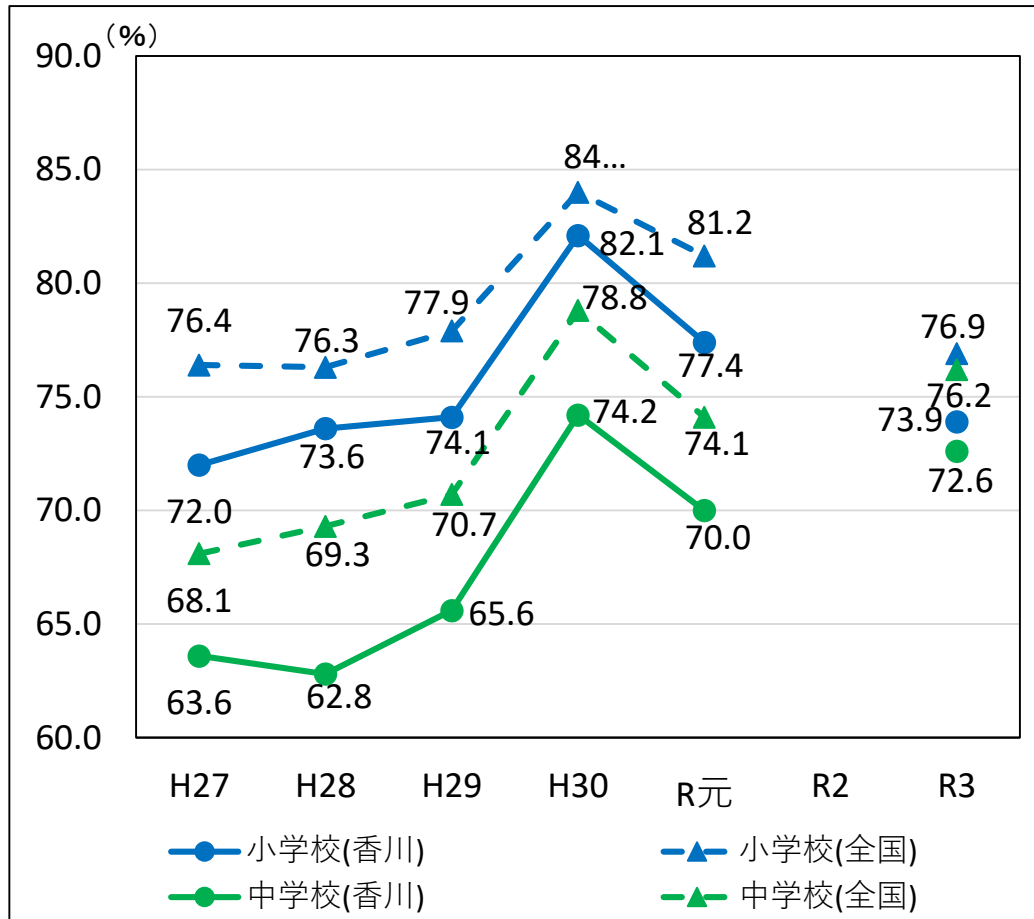
「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学校で全国平均を大きく上回り、中学校で下回っています。

※R2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により調査無し。

自己肯定感・自己有用感

問) 自分には、よいところがあると思いますか

肯定的に回答した児童生徒の割合



肯定的に回答した児童生徒の割合は、平成27年度と比較すると、小・中学校ともに増加傾向が見られますが、依然として小・中学校ともに全国平均を下回っています。

R2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により調査無し。

2 豊かな人間性をはぐくむ教育の推進

まとめ

社会性や道徳性を養うとともに、命の大切さなどを児童生徒が実感できる道徳教育の充実を図った。

一方で、依然として課題である子どもたちの自己肯定感・自己有用感の向上や、人生の重要な視座の確立に繋がる、郷土に対する愛着や誇りの育成に取り組む必要がある。

主な課題

- ・ 学校教育活動全体を通じた道徳教育の推進
- ・ 体験活動やボランティア活動などを通じた、自己肯定感・自己有用感の向上
- ・ 郷土に対する愛着や誇り、郷土の発展に主体的に参加する意欲や態度の育成と、郷土を支える人材づくり
- ・ いじめ・不登校対策におけるチーム学校の専門家の一層の活用
- ・ 関係機関との連携等による効果的な不登校支援の充実
- ・ 若年教職員に対する人権・同和教育研修の拡充

3 すこやかな体をはぐくむ教育の推進

平成28年度～令和2年度の主な取組み

①	体力づくりの推進	<ul style="list-style-type: none">・ 体力向上プロジェクトチーム（H29～R元年度）による調査結果を踏まえた「<u>さめきっ子チャレンジカード</u>」の活用・ 部活動指導員や外部指導者の派遣
②	健康教育の推進	<ul style="list-style-type: none">・ 生活習慣病の予防や多様な健康課題への対応のための研修・ 新型コロナウイルス感染症の拡大を踏まえた指導と感染症対策の徹底
③	食育の推進	<ul style="list-style-type: none">・ 地場産物や季節の郷土料理を取り入れた給食を提供する「ふるさとの食再発見事業」の実施・ 栄養教諭等による教科等における食に関する指導

児童生徒の体格・肥満傾向

小学5年男子

体格(全国、順位)

身長 138.5cm (140.1cm、45位)
体重 34.8 kg (35.9kg、40位)
肥満傾向児 12.03% (14.24%、13位)
痩身傾向児 1.35 % (2.76%、4位)

中学2年男子

体格(全国、順位)

身長 160.1cm (161.4cm、37位)
体重 50.1 kg (50.9kg、33位)
肥満傾向児 11.37% (12.18%、18位)
痩身傾向児 2.86 % (2.99%、33位)

高校2年男子

体格(全国、順位)

身長 169.7 cm (170.2cm、32位)
体重 60.7 kg (60.9kg、29位)
肥満傾向児 10.38% (11.54%、11位)
痩身傾向児 4.25 % (4.07%、34位)

小学5年女子

体格(全国、順位)

身長 140.7cm (141.5cm、33位)
体重 35.2 kg (35.4kg、22位)
肥満傾向児 11.08% (9.47%、36位)
痩身傾向児 1.98 % (2.76%、18位)

中学2年女子

体格(全国、順位)

身長 154.5 cm (155.2cm、41位)
体重 48.4 kg (47.9kg、11位)
肥満傾向児 9.92 % (8.53%、32位)
痩身傾向児 3.29 % (3.20%、30位)

高校2年女子

体格(全国、順位)

身長 157.3 cm (157.7cm、29位)
体重 51.9 kg (51.9kg、29位)
肥満傾向児 8.26 % (6.59%、33位)
痩身傾向児 2.64 % (3.24%、29位)

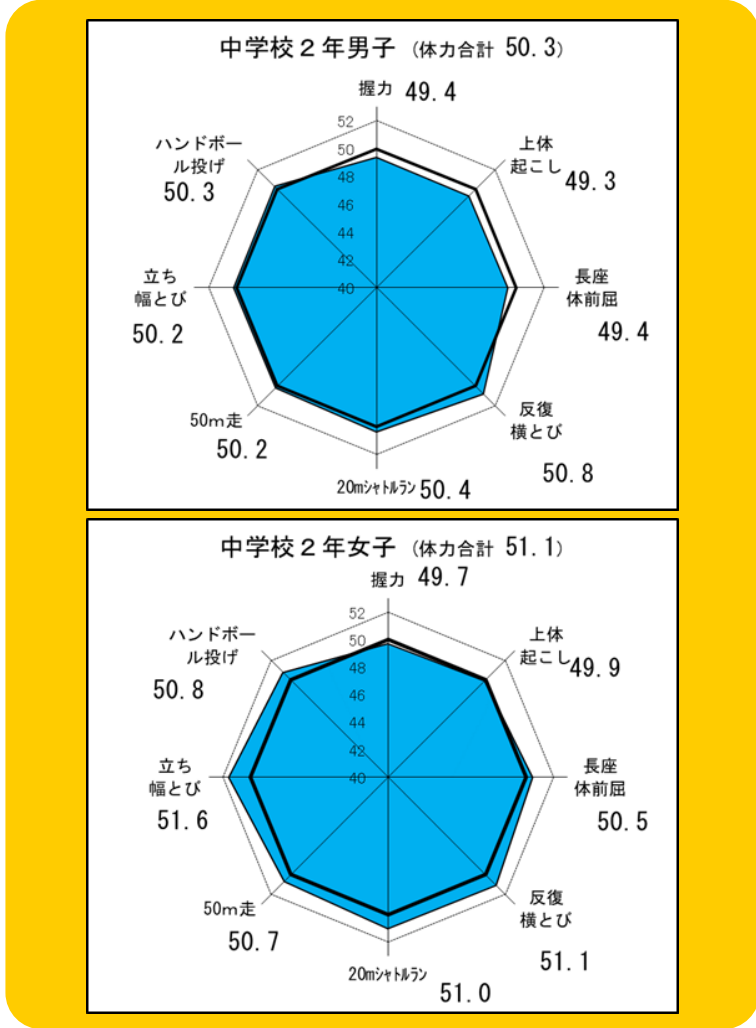
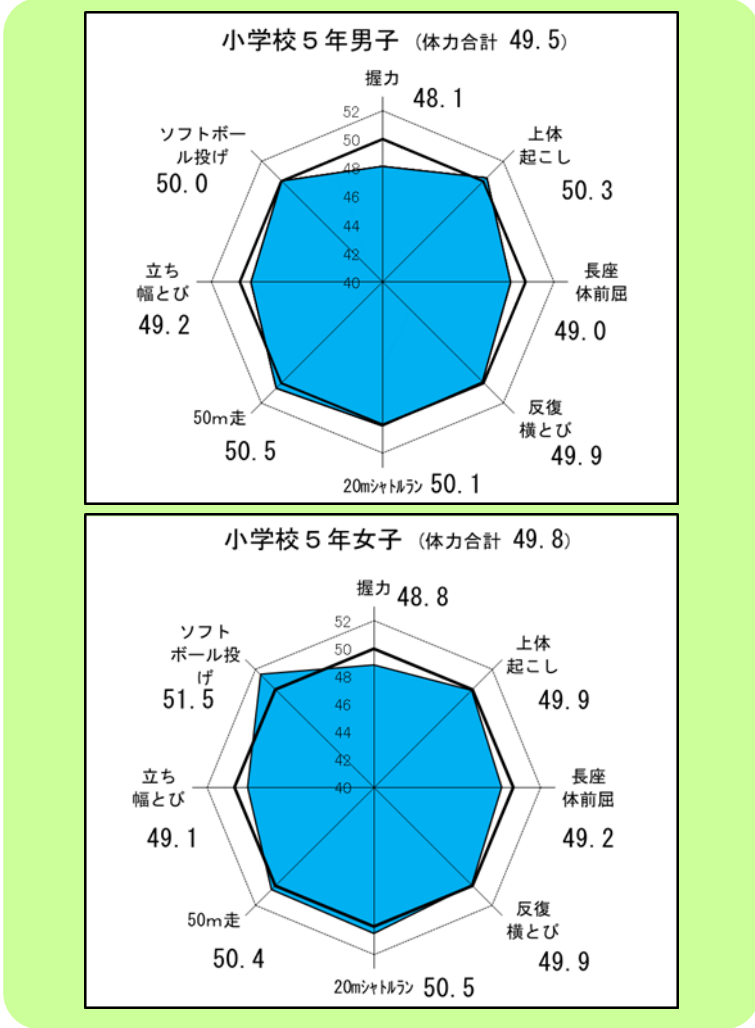
※ 肥満傾向児・痩身傾向児の順位は、出現率の低い順

令和2年度 学校保健統計調査

全国と比較すると、肥満傾向児は男子が全校種で下回り、女子は全校種で上回っています。痩身傾向児は、高校生男子と中学生女子が全国平均より高い出現率となっています。

体力・運動能力 (T-スコア※)

※県平均値が全国平均値(50)と比べて、どれくらいの位置にいるかを示した指標。

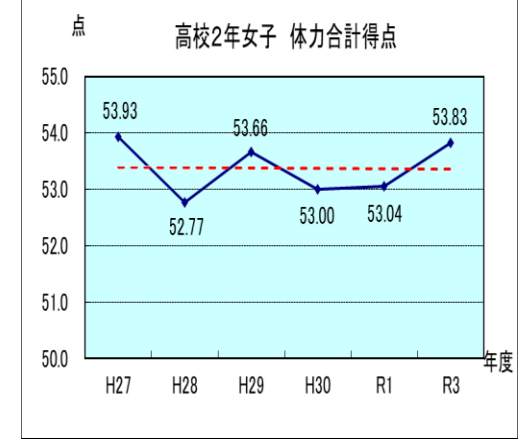
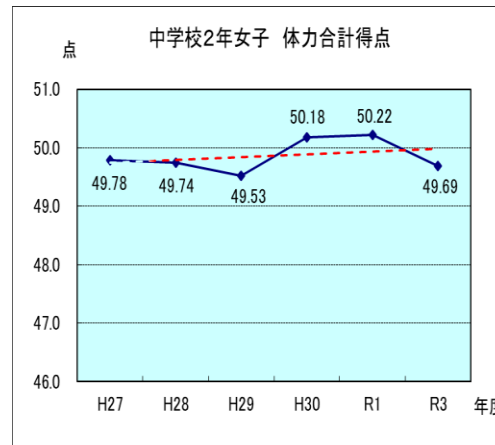
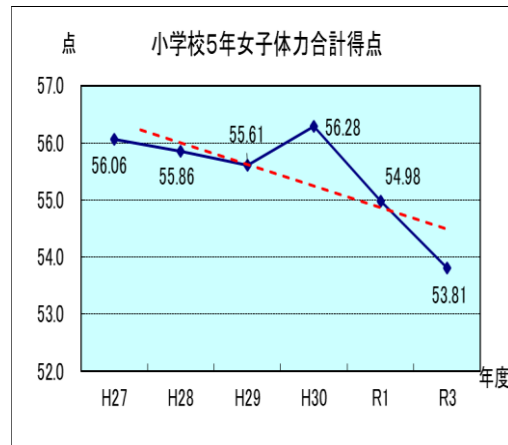
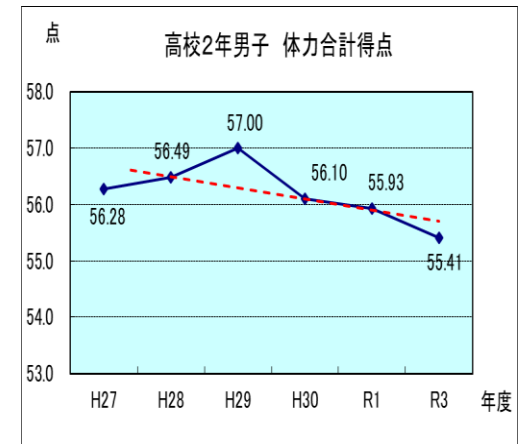
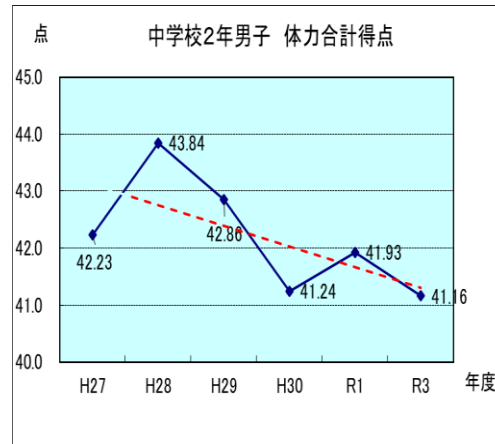
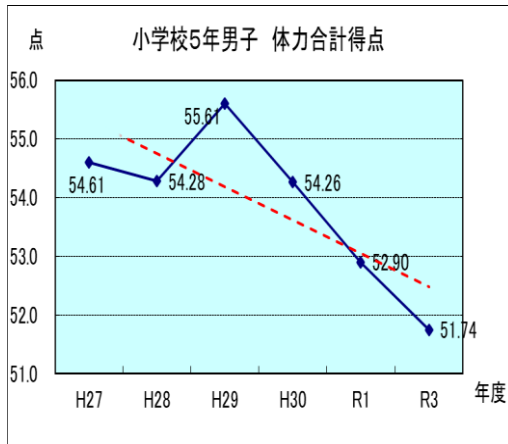


令和3年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査(全数調査)

体力・運動能力を全国と比較すると、体力合計点は小学校では男女ともに下回っていますが、中学校では男女ともに上回っています。

体力・運動能力(体力合計得点の年次推移)

—●— 香川県 - - - 香川県の近似直線(H27~R3)



令和3年度 香川県体力・運動能力調査(全数調査)
令和2年度は、調査中止

体力・運動能力における体力合計点の直近6年間の推移をみると、男子は小・中・高校生ともに低下傾向で、女子は中・高校生が横ばいで推移、小学生は低下傾向となっています。

3 すこやかな体をはぐくむ教育の推進

まとめ

本県の子どもたちの体力は全国平均並みかやや低い状況が続いており、引き続き体力向上を図る必要がある。

新型コロナウイルス感染症をはじめ、アレルギー疾患や視力低下、性に関する問題や災害・事故発生時における心のケアなど、多様化する健康課題にも対応していく必要がある。

主な課題

- ・ 児童生徒の体格や体力・運動能力の向上
- ・ 運動、食事、休養及び睡眠を柱とする望ましい生活習慣の確立
- ・ 感染症対策の徹底と多様化する健康課題への対応
- ・ 生涯にわたって自分の心と体に向き合いながら、主体的に健康を保持していこうとする態度の養成
- ・ 発達段階に応じた食に関する理解と望ましい食習慣の確立

4 元気で安心できる学校づくり

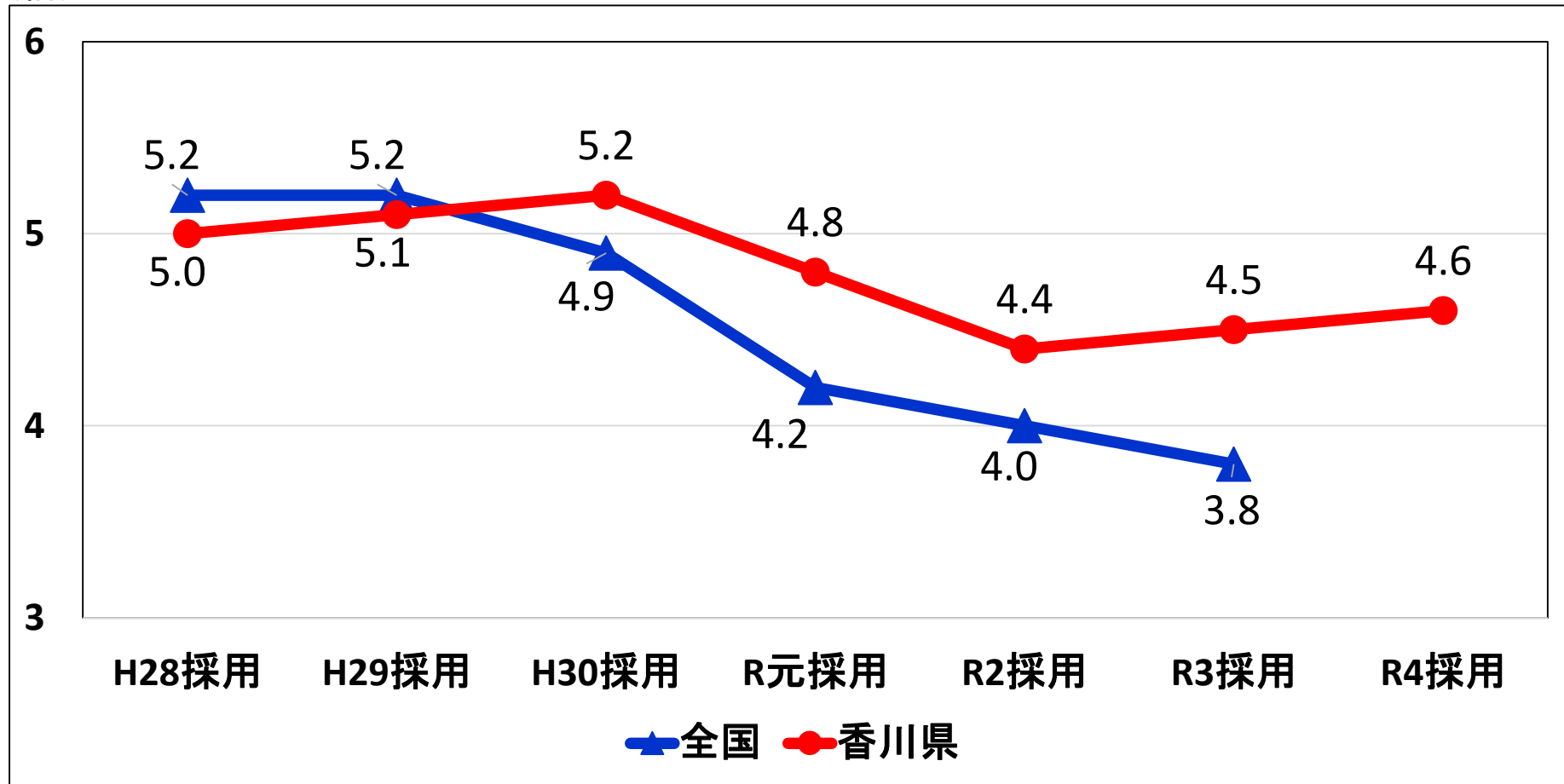
平成28年度～令和2年度の主な取組み

①	優れた教員の確保と 資質能力の向上	<ul style="list-style-type: none">・「<u>香川県教員等人材育成方針</u>」の策定（H29年度）・教員採用試験における秋募集の実施(R元年度～)・退職教員による「さぬき学びの支援隊」の活用
②	教員が子どもと 向き合う環境づくり	<ul style="list-style-type: none">・「<u>教職員の働き方改革プラン</u>」（H29年度）に基づく取組み・「<u>香川県部活動ガイドライン</u>」の策定（H30年度）・部活動指導員やスクールサポートスタッフの活用
③	信頼され、魅力ある 学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none">・地域住民と連携した行事や授業、学校運営の実施・「<u>魅力あふれる県立高校推進ビジョン</u>」の策定（R元年度） など、県立高校の魅力向上【再掲】
④	学校安全の充実	<ul style="list-style-type: none">・学校防災アドバイザーの学校への派遣による防災体制の整備 や<u>防災教育の充実</u>・警察・道路管理者と連携した各市町における<u>通学路交通安全プログラム</u>の構築推進・全県立高校における自転車運転免許制度の実施
⑤	安全安心な教育環境 の整備、充実	<ul style="list-style-type: none">・非構造部材などの耐震対策や老朽化対策の推進・「<u>香川県立学校施設長寿命化計画</u>」の策定（R2年度）・実習船「翔洋丸」の大分県との共同運航（R元年度～）
⑥	就学支援の推進	<ul style="list-style-type: none">・就学支援の着実な実施

教員採用試験 全体※の競争率（採用倍率）の推移

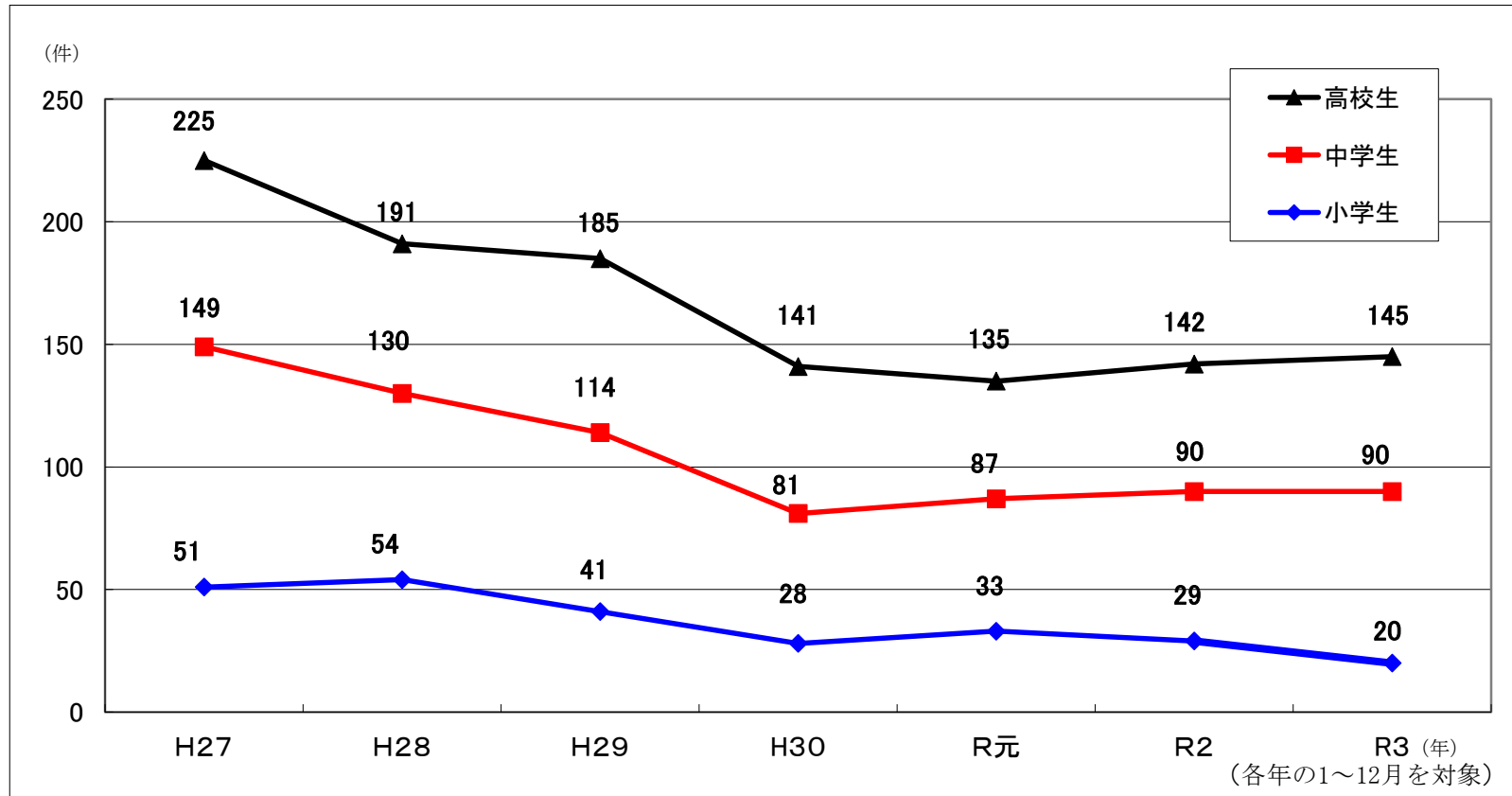
※全体…小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、養護教諭、栄養教諭の合計

(倍)



全国的に教員志願者が減少し、競争率（採用倍率）が下がっている中、香川県は一定程度の競争率（採用倍率）を維持しています。

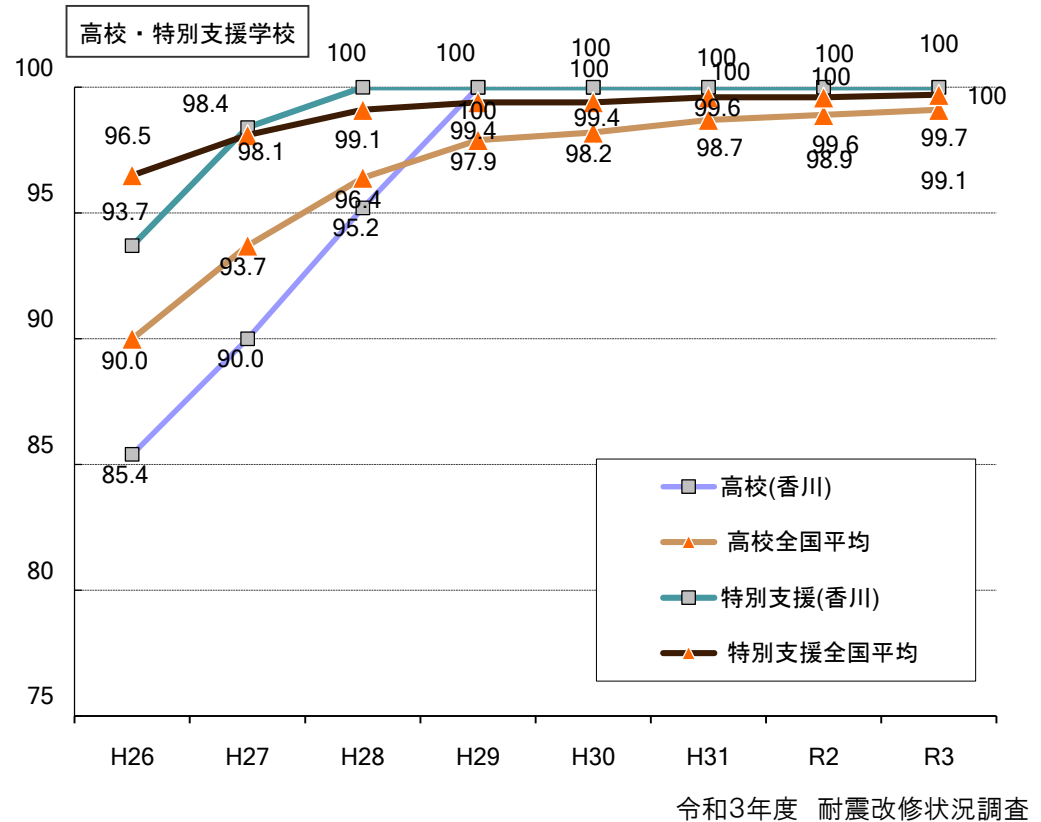
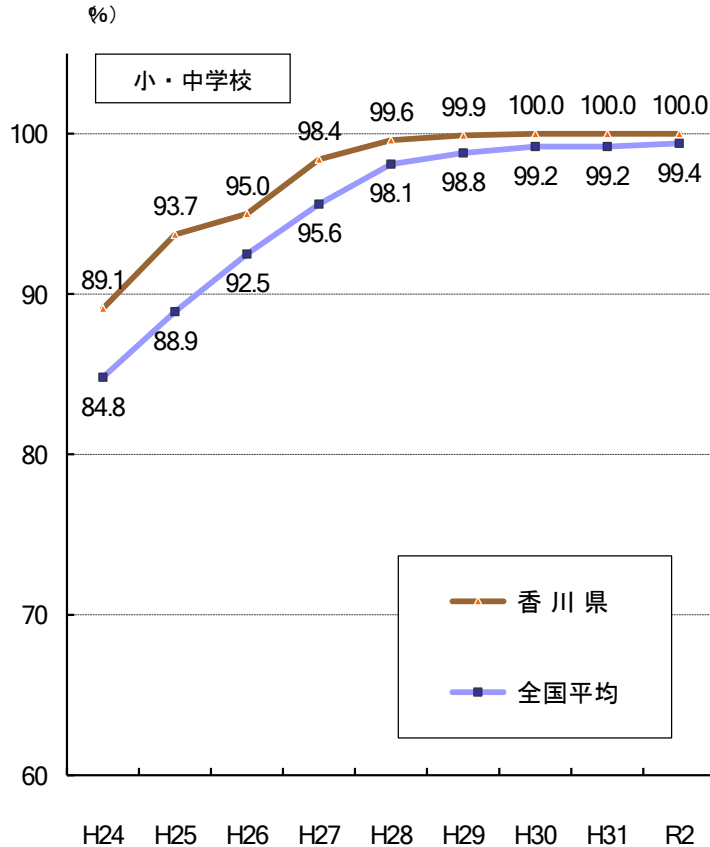
自転車乗用中における事故発生件数



香川県警察本部交通企画課提供資料

子どもたちの自転車乗用中における事故発生件数は、令和2年度と比較すると、小学生は減少傾向、中学生は同数、高校生はやや微増傾向にあります。

公立学校施設の耐震改修状況



公立学校施設（構造体）の耐震化率は、平成30年4月1日時点で、小・中学校、高校、特別支援学校いずれも100%となっています。

4 元気で安心できる学校づくり

まとめ

香川県の教員として、意欲と熱意を持った優秀な人材を確保するとともに、「香川県教員等人材育成方針」を踏まえた資質向上を図った。また学校の耐震化や老朽化対策についても計画的・着実な実施に努めた。

引き続き、児童生徒の安全・安心の確保に努めるとともに、新型コロナウイルス感染症など新たな課題にも対応していく必要がある。

また、より一層、魅力ある優れた教員の確保や資質・能力の向上や、学校における働き方改革を推進する必要がある。

主な課題

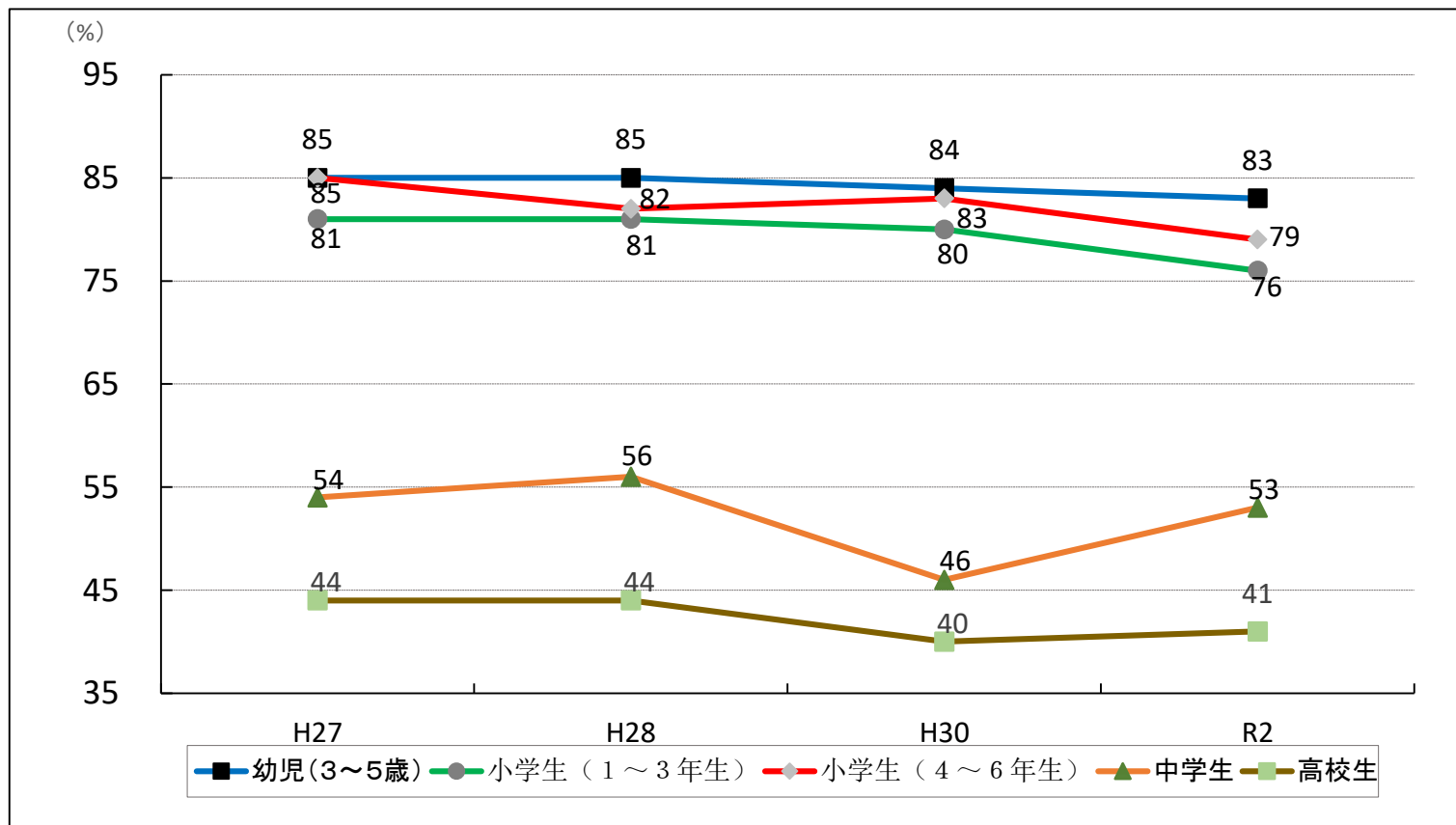
- ・ 魅力ある優れた教員の確保や資質・能力の向上
- ・ 学校における働き方改革のより一層の推進
- ・ 登下校時の交通事故や犯罪、自然災害への対策
- ・ 新型コロナウイルス感染症対応の経験を踏まえた、緊急時の学びの保障や心のケアの充実
- ・ さまざまな理由により十分な教育が受けられていない人への教育機会の提供
- ・ ここで学びたい、学ばせたいと思えるような学校づくり

5 社会全体で子どもを育て、いつでも学べる環境づくり

平成28年度～令和2年度の主な取組み

①	親育ちを応援する環境づくり	<ul style="list-style-type: none">・「早寝・早起き・朝ごはん」など<u>基本的な生活習慣の啓発</u>・家庭教育推進専門員によるワークショップの開催・教育センターにおける様々な媒体による教育相談の実施
②	地域で子どもを育てる環境づくり	<ul style="list-style-type: none">・<u>地域学校協働活動の推進</u>・おやじの会の設立や活動の活性化に対する支援
③	子どもが読書に親しめる環境づくり	<ul style="list-style-type: none">・「親子読み聞かせ教室」の開催や、<u>読み聞かせアドバイザーのスキルアップ研修の実施</u>・読書運動やビブリオバトル（書評合戦）を通じた啓発・県立図書館における学校支援文庫の充実や読み聞かせボランティアの育成
④	学びにチャレンジできる環境づくり	<ul style="list-style-type: none">・香川大学等と連携した「キャンパス講座」の実施・生涯学習情報提供システム「かがわ学びプラザ するするドットネット」によるイベント等の情報提供

家で週1回以上本を読んでいる子どもの割合 (読み聞かせを含む)



香川県教育委員会調査

週1回本を読んでいる子どもの割合は、小学生が約8割、中学生が約5割、高校生が約4割にとどまっており、学校段階が上がるにつれて、本を読まない割合が高くなる状況が続いています。

5 社会全体で子どもを育て、いつでも学べる環境づくり

まとめ

親同士の学びを取り入れたワークショップを行う家庭教育推進専門員による活動は、保護者間のネットワークづくりに繋がっている。

一方で、家庭環境の多様化に伴い、子育てについての不安や孤立を感じる家庭、生活習慣の乱れなどの課題を抱える家庭が増加している。

また、依然として、学校段階が進むにつれて本を読まない割合が高くなっている。

主な課題

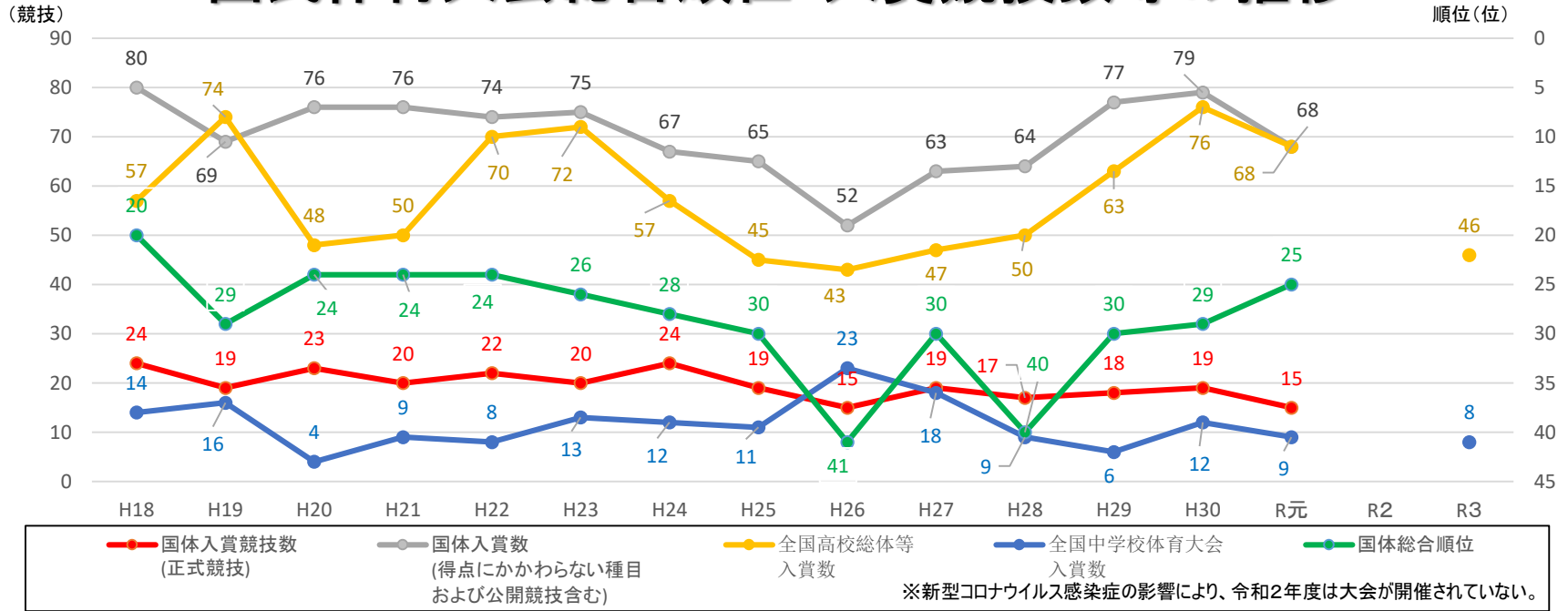
- ・ 子どもの成長に応じた保護者に対する啓発活動の充実
- ・ 地域コーディネーターの設置など地域学校協働活動の促進
- ・ 子どもの読書活動の促進と読解力の育成
- ・ 社会人の学び直しのための教育など、ライフスタイルに応じた学びの機会の提供

6 多様なスポーツ活動が実践できる環境づくり

平成28年度～令和2年度の主な取組み

①	生涯にわたりスポーツに親しむことができる環境づくり	<ul style="list-style-type: none">・ <u>総合型スポーツクラブの育成支援</u>・ 生涯スポーツ指導者や総合型地域スポーツクラブマネジャーの養成・ 県民スポーツ・レクリエーション祭の開催
②	トップアスリートをめざし、競技力を高めることができる環境づくり	<ul style="list-style-type: none">・ <u>ジュニア期からの人材の発掘・育成</u>・ トップアスリート育成のための支援

国民体育大会総合順位・入賞競技数等の推移



アジア競技大会・オリンピック大会での出場者数(香川県出身)

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
アジア競技大会	ドーハ 6	-	-	-	広州 6	-	-	-	仁川 9	-	-	-	ジャカルタ 8	-	-	-
オリンピック大会	-	-	北京 0	-	-	-	ロンドン 0	-	-	-	リオデ ジャネイロ 1	-	-	-	-	東京 7

1年延期となった東京オリンピックでは、目標の5人を上回り、過去最多となる7人の本県出身選手が出場し、フェンシング競技の宇山選手が金メダルを獲得しました。全国高等学校総合体育大会については、入賞数が減少しました。

6 多様なスポーツ活動が実践できる環境づくり

まとめ

令和3年に延期された東京2020オリンピック競技大会では本県出身選手が過去最多の7人出場した。また、国民体育大会では平成30年度から20位台を維持しているとともに、ジュニア選手の育成も進んでいる。

一方で、成人の週1回以上運動・スポーツをしている人の割合は本県では54.9%と全国よりも低い状況となっている。

引き続き、競技力の向上に努めるとともに、誰もがスポーツを「する」「みる」「ささえる」活動ができるよう、生涯スポーツの環境整備を推進する必要がある。

主な課題

- ・ 総合型地域スポーツクラブの設立促進
- ・ 一人ひとりの年代や関心、適性等に応じた、日常的にスポーツに親しむ機会の充実
- ・ ジュニアからトップアスリートに至るまでの総合的な競技力向上
- ・ 新県立体育館の整備等県立スポーツ施設の充実

7 文化芸術に親しむ環境づくり (文化遺産の継承)

平成28年度～令和2年度の主な取組み

- ・ 文化財保護指導委員による巡回や、計画的な保存修理の実施
- ・ 讃岐国府跡調査事業の実施
- ・ 「香川の文化財」(改訂版)の刊行(R2年度)
- ・ 「香川県文化財保存活用大綱」の策定(R2年度)

国県指定文化財件数

(件)

	H28	H29	H30	R元	R2	R3
新指定文化財(国)	0	1	1	4	0	2
新指定文化財(県)	0	2	1	3	2	0
計	0	3	2	7	2	2
累計	0	3	5	12	14	16

文化財の総指定件数 (令和3年度)

- ・国指定文化財 223件
- ・県指定文化財 177件

国指定文化財、県指定文化財とも、指定件数は増加しています。

7 文化芸術に親しむ環境づくり (文化遺産の継承)

まとめ

個別の文化財保護に加え、地域内における文化財を一体的に捉え、その個性(地域性)を明確にし、一層の保存・活用を推進する必要がある。

主な課題

- ・ 文化財の国指定及び県指定や登録の推進による文化財保護の促進
- ・ 讚岐国府跡調査事業の成果を活用した文化財保護意識の普及や地域活性化
- ・ 市町と連携した地域の文化財・文化遺産の調査・保存
- ・ 市町による「文化財保存活用地域計画」や個別の文化財保存活用計画の作成作業等の支援